

福島県
書道連盟

会報

第28号

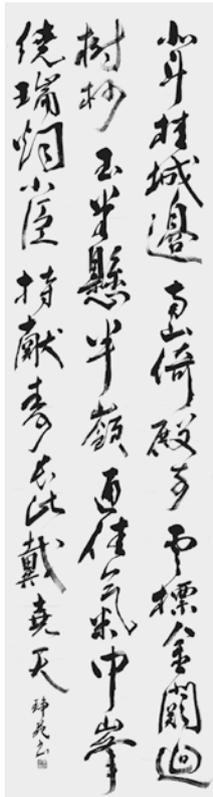
令和3年3月31日発行

福島県書道連盟
広報部

本部〒960-1101
福島市大森字鶴巻67-6
電話 (024) 539-7548

令和二年度 第四十四回福島県書道連盟展
「紙上展」

【一般の部】



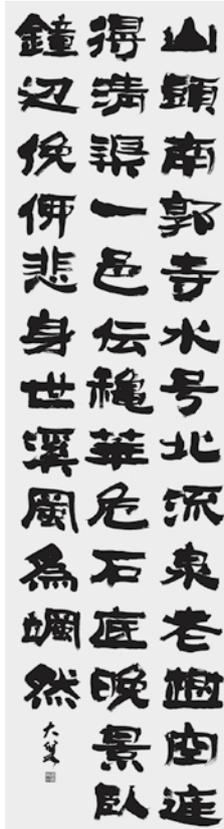
北斗桂城邊 182×60cm
福島県知事賞
後藤瑋苑 (福島市)



竹影掃階塵不動 136×70cm
福島県書連大賞
阿部剛節 (小野町)



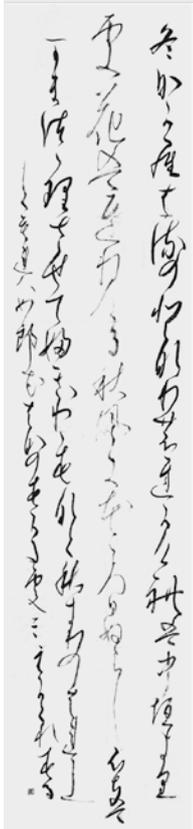
魏学伊詩 201×52cm
福島県書連大賞
松浦恵鶴 (国見町)



秦州雑詩 205×53cm
福島県書道連盟賞
西牧大篁 (小野町)



尋隠者不遇 205×47.5cm
福島県文化センター館長賞
須田愛泉 (福島市)



ふゆながら 233×53cm
福島市長賞
佐藤香月 (伊達市)



冬の湖水 204×53cm
福島市教育委員会教育長賞
阿曾雅舟 (川俣町)

中歳頗好道 晚來為心隱 興未每獨
 佳 絲 事 自知 行 到 亦 窮 處 生 見 雲
 起 時 偶 然 值 林 叟 談 笑 無 還 期

中歳頗好道 176×53cm
 読売新聞東京本社福島支局賞
 齋藤 静雨 (福島市)

楚翁秦塞住 昔事李輕車 白社貧思
 橘 青 門 老 種 瓜 讀 書 三 徑 草 沽 酒 一
 籬 花 更 欲 尋 芝 朮 高 山 便 寄 家

楚翁秦塞住 177×53cm
 朝日新聞福島総局賞
 二階堂 黄岳 (福島市)

蕩舟歸 今夜黃昏湖上舟
 橫門但送數聲鶯 何處起汀香
 一棹玉梅根

李德庸詩 205×53cm
 福島民友新聞社賞
 阿部大河 (小野町)

敬仁盡乃君臣分
 慈孝蔽於父子間

七言對句 235×53cm
 福島民報社賞
 新田溪楓 (小野町)

蘭 然 物 心

心 200×54cm
 福島中央テレビ賞
 阿部美雅 (伊達市)

紅樓糖久自毫光 迥寒福其君 是道至山情漫切
 平摩泛海路 且去聲 取息開天 從却氣若飄搖
 卿亦漢江中 翰可刊句 懷深院 漢江詞

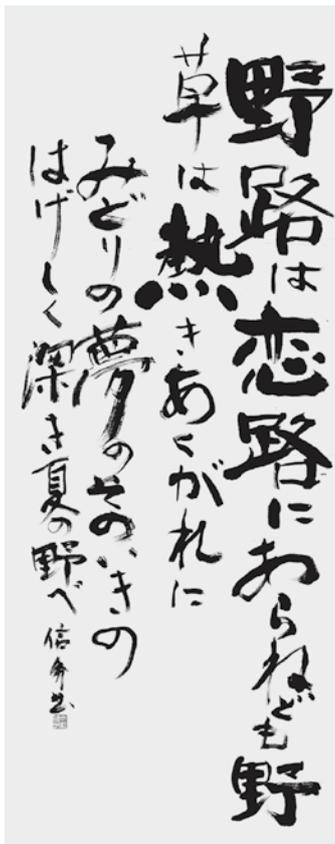
紅樓院應制 205×53cm
 福島テレビ賞
 遠藤溪祥 (田村市)

洞庭木落水 水生波斜月 雲窗露氣
 夏雲帝 不以林色晚 滿江烟 句法休緣

洞庭木落水 200×46cm
 NHK福島放送局賞
 中村庭哥 (福島市)

大哉乾元播物垂象 肇有書契
 文籍生焉 雖十翼精微 陰陽之
 化不測 九流沉與仁義之塗 斯
 闡而勞生蠢蠢 豈厭塵門閣海
 世世恒湮 苦浪亦有寶經 浮說
 錦籍寓詞 駕鳳

臨 道因法師碑 133×70cm
 毎日新聞福島支局賞
 内海春邨 (会津若松市)



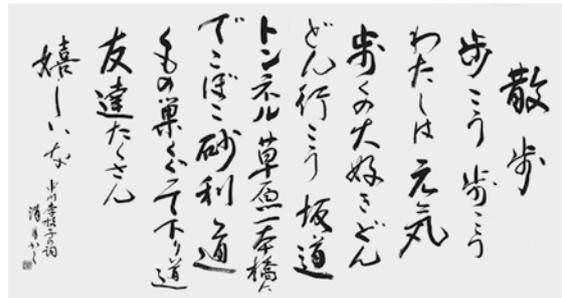
野路 135×53cm

ふくしま FM 賞
大江信秀 (伊達市)



龍池望五雲 205×53cm

ラジオ福島賞
慶徳春水 (会津若松市)



散歩 70×136cm

福島放送賞
鈴木清月 (福島市)



翼をください 70×136cm

テレビユー福島賞
道喜珠芳 (会津若松市)

福島県知事賞を受賞して

後藤 琇苑 (福島市)

この度、第四十四回福島県書道連盟展におきまして、名誉ある「福島県知事賞」を受賞し、感激と同時に身の引き締まる思いで「知事賞」の重みを感じております。これも偏に、菅野精堂会長をはじめ、県書道連盟の諸先生方、そしてご指導いただいている菅野泰洲先生、曙光先生の熱意あるご指導の賜物と深く感謝申し上げます。また同時に、家族の協力や書を通じて仲間となつた皆様方の支えもあり受賞できたものと改めて感謝申し上げます。

退職後も充実した日々を送りたいと菅野泰洲先生、曙光先生の下で学ぶことになり何度か挫折しそうになりましたが、両先生のご指導や励ましもあり、続けることができました。

この受賞を機に、更なる自己研鑽を積み重ねる所存ですので、今後もご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げますと共に、県書道連盟の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

福島県書道連大賞を受賞して

松浦 恵鶴 (伊達郡国見町)

この度、第四十四回福島県書道連盟展において、「福島県書道連大賞」をいただき、誠にありがとうございました。これも偏に、会長さん、副会長さんをはじめ諸先生方のお力添えによるものと深く感謝申し上げます。

福島県書道連盟展は子ども達にとつても、日頃の練習の成果を試すとても良い機会です。賞状をいただいた時の子ども達の喜ぶ顔は私の喜びでもあり、励みになります。

これからも、書の美しさ、楽しさを多くの人達に伝えていくと共に、私自身さらに向上できるように努力を重ねていきたいと思えます。



福島県書道連大賞を受賞して

阿部 剛 節
(田村郡小野町)

この度、第四十四回福島県書道連盟展におきまして、「福島県書道連大賞」をいただき、誠にありがとうございます。これも偏に、菅野精堂会長はじめ、県書道連盟の諸先生方のお力添えあつてのことと深く感謝申し上げます。私は現在、高校の教員として書道を教えておりますが、日々の授業の中では、自分から教えるだけでなく、生徒から学ばせてもらう場面も多くあります。それによって、書に対する考え方や自身の作品制作に大きく影響を与えてもらっていると実感しています。また、会長の菅野精堂先生には、私が高校生の頃から書道を通して多くのことを学ばせていただいております。まだまだ恩返しとは言えませんが、これからの福島県の書道と福島県書道連盟のご発展のために尽力してまいりたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最優秀団体賞「文部科学大臣賞」を受賞して

後藤教室 後藤 翠 春
(須賀川市)

この度は、第四十四回福島県書道連盟展に於きまして、最優秀団体賞「文部科学大臣賞」を頂きまして心より感謝申し上げます。

子ども達の日頃の練習の積み重ねと、親御さん達の温かい協力のもとにこの様な大きな賞に繋がったものと改めて感謝の気持ちで一杯です。教室一同よりお礼申し上げます。

コロナで大変な日々の中、子ども達は何か一つでも続けること、変わらぬ生活であることに一生懸命です。書を通して全く変わらなず続けていくことに今までない気持ちと向かい合っています。ハンディを持つ子ども達も今年度大変多く入会してきています。その子ども達も、この様な大きな賞は大きな喜びとしてとらえてくれています。楽しく笑顔で書に向かう教室をこれからも目ざして頑張つてまいりたいと思っております。今後とも連盟の皆様のご指導をいただきます様、宜しくお願ひ申し上げます。

最優秀団体賞「県書道連盟大賞」を受賞して

福島大学附属小学校
校長 千葉 養 伍
(福島市)

この度、第四十四回福島県書道連盟展において、最優秀団体賞「県書道連盟大賞」をいただきました。栄誉なことで感謝申し上げます。

毛筆は、はねやはらひの感覚を掴みやすい素晴らしいものです。掴んだ感覚は硬筆にも生かすことができます。そのため、本校では水書用筆を使用し、低学年の書写の授業から毛筆に取り組んでおります。水書のよさを生かし、繰り返し練習に取り組むことで子どもたちは、はねやはらひの感覚を掴むとともに、毛筆の魅力を感じています。

今後も硬筆と毛筆の関連的な指導を図り、子どもたちが文字を正しく整えて書くことができるように努めてまいります。ご指導ご支援いただいております連盟の皆様と関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

最優秀団体賞「福島市長賞」を受賞して

書道研究会 大師塾
会長 郡 司 聖 峰
(田村郡小野町)

この度は、第四十四回福島県書道連盟展に於きまして、栄えある福島市長賞に御推挙いただき、日頃よりご指導をいただいております本会主宰阿部大溪先生並びに阿部大河先生に心から感謝いたしますとともに、選考にあたられました菅野精堂会長をはじめ諸先生方に厚く御礼を申し上げます。

令和二年より続くコロナ禍にあつて、当会においても稽古時間を制限しながらの制作となりましたが、両先生の的確なご指導によりそれぞれの部門で数多くの個人賞をいただく結果となりました。令和三年一月からは一般部も阿部大河先生にご指導いただいております。阿部大溪先生が築き上げられた土台に、今後ますます強固な技術や知識の柱を立てるべく会員一同精進して参る所存であります。

結びに福島県書道連盟並びに所属される皆様の御健筆をお祈り申し上げます。受賞の御挨拶とさせていただきます。今後とも変わらぬ御指導を賜りますようお願いいたします。

高校生の部 大賞を受賞して

福島県立福島東高等学校

三年 佐藤 ひなた

(福島市)

この度は、福島県書道連盟展において、高校生の部で大賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。

小学一年生の時から書道教室に通い練習してきましたが、顔真卿の書は、高校一年生の後半に、部活動の顧問の先生に勧められたことがきっかけで学び始めました。これまで自分が書いたことのない書風だったため、初めは苦戦しました。しかし、毎日練習していくにつれて自分が書けるようになっていくことを実感すると共に、段々とその書の魅力や完成した一つの作品としての迫力に惹かれていきました。

書道部の最後の活動として連盟展に参加させていただきましたが、このような賞をいただくことができ、諦めずに続けてきて良かったと感じています。同時に、顧問の先生や書道教室の先生方、家族、そして書道部の仲間がいたからこそ、ここまで頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

学生の部 大賞を受賞して

白鷗大学

四年 阿部 峻

(田村郡小野町)

この度、県書道連盟展に於きまして、学生の部大賞という大変栄誉ある賞を頂き、この上ない喜びと幸せを感じております。

今回の連盟展は、新型コロナウイルスという未曾有の事態の中で行われ、私も書道を通して沢山の方々に少しでも元気を与えたいと考えていました。

顔真卿の筆法を用いて書いた「天禄永昌」の文字。これには、天からの幸福が永く続き尽きることがないという意味が込められており、未だ終息していないこの現状が、一刻も早く収まり、従来のような生活に戻るよう祈願し、作品制作に取り組みました。

結びになりますが、菅野精堂先生をはじめ諸先生方の審査により、大学四年間を通して大賞を頂きましたこと、日頃よりご支援して下さいる大師塾の会員の皆様深く感謝申し上げます、御礼の言葉とさせていただきます。

学童の部 大賞を受賞して

郡山市立富田東小学校

六年 前林 里央梨

この度は、「大賞」という賞を頂き、嬉しく思います。「星雲」を書くにあたり、線の太さや字のバランスなどに気をつけ、たくさん書き続け納得のいく作品ができるまでがんばりました。

「星雲」とは、輝いた雲のように見える天体という意味を持っています。ですから、私も一画一画に心を込めて輝くように練習したので、このような作品を仕上げることができました。

私は小学二年生から書道を始めて、年月が経っていくうちに「書道でたくさん人の心を明るく、笑顔にしたい」と思うようになり、さらに熱心に取り組むようになりました。

これからもたくさんの人を笑顔にできるように努力することの大切さを忘れず、輝く作品ができるよう精いっぱいがんばっていききたいと思えます。今回の作品を制作するにあたり、支えてくれた家族や指導してくれた先生、応援してくれた友達に心より感謝申し上げます。

学童の部 大賞を受賞して

川俣町立川俣中学校

二年 齋藤 きあり

この度は、学童の部で「大賞」という素晴らしい賞を頂き、大変嬉しく思います。

昨年は様々な大会や多くの書道展が延期や中止になり、残念な思いでいました。そんなときに、福島県書道連盟展があることを知り、たくさん練習していた「遠景」を出品できることがとても嬉しかったです。

小学生の頃や行書を書き始めたばかりの頃は、あまり良い結果が出ず、悔しい思いをしてきました。ですが、家族に助言をしてもらいながら、綺麗な線とつながりに気をつけてたくさん練習したことで、今回このような素晴らしい賞を受賞できたと思います。

中学生になってから、勉強や部活動、書道の両立は大変ではありますが、私にとって全て大好きで頑張りたいことなので、これからも続けていきたいです。

改めて、支えてくれている家族や、出品する機会を与えてくださった連盟の皆様心より感謝申し上げます。

令和二年度福島県書道連盟 活動状況報告

福島県書道連盟 会長 菅野 精堂（忠信）

「苦しみの中にこそ光あり」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、県内の各種催し物が悉く中止や延期を余儀なくされ、各書道展もまた例外ではありませんでした。三月から五月までは県内の小中高校が臨時休校となり、様々な社会活動が自粛要請によりストップし、私たちの生活に与える影響は非常に大きなものがあります。「新しい生活様式」「ウィズ コロナ」が叫ばれ続け、私たちの生活意識も「コロナ対策至上主義」に変わり、それが日常化しているような感じがします。書道展の中止・延期により自分の練習成果の発表機会が奪われるという状況下において、本連盟では皆様の安全・安心を配慮しつつ、第四十四回展を、作品集の発行による「誌上展」として行うことにいたしました。また、今年度から、これまでの「福島県書道連盟選抜展」から「福島県書道連盟展」と行事名を改め、新しい第一歩を踏み出しました。本連盟にとって「誌上展」は、二〇二一年三月十一日に起きた未曾有

の東日本大震災による第三十五回記念選抜展以来、二度目の開催となります。当時は、予想だにしない突然の天災の地震と津波、それによって起きた人災の原発事故と、郷土福島県は他に類を見ない二重苦三重苦を背負いました。地震による被害で福島県文化センターが使用できず、初めての「誌上展」としての開催になりました。その時と同様に、一般公開展示はできませんでしたが、県内外の書を愛する大勢の方々から出品していただくとともに、福島県、県教育委員会をはじめとする多くの後援団体様からのご支援を賜り、無事に開催することができました。この場をお借りしまして、あらためて心よりお礼を申し上げます。

「文明が減びても人間社会は崩壊しないが、文化が減びると人間社会は成り立たない」と言われるように、芸術やスポーツ、宗教などの文化は、私たちの心の拠り所となり、日々の生活の精神面の支えとなり、種々の文化活動を通して人とのコミュニケーションが図られネットワークが広がります。コロナ禍の今だからこそ、安全対策を講じながら、「新しい開催様式」を模索

意味の豊かさこそ

こ・ら・む

日本語の素晴らしさ

会長 菅野 精堂
(福島市)

して、展覧会の実施を継続することで、地元福島のために微力ながら力を尽くして参りたいと考えております

こんな短歌に思わず微笑みました。
明けな夜はありませぬ。イラストレーターの中貞行さんが、SNSで披露した歌をご存じでしょうか。

しばらくは 離れて暮らす
コとロとナ つぎ逢ふ時は
君といふ字に

漢字の「君」を分解すると、なるほど「コ」「ロ」「ナ」の三文字。見事なユーモアの先に、希望の灯がまたいたっています。新型コロナウイルスの影響で大切な人と会えないつらさや未来への希望を綴った歌。苦の中に光あり。「生きる力」を感じます。

日本語は、漢字によって飛躍的に進化した。漢字は使い勝手がよく、日常に欠くべからざる存在です。しかし、その功とともに罪の部分も認めなくてはなりません。音と訓の誤解もそうですが、それよりも大きな問題は、漢字が日本語の持つ働きの意味を奪ってしまったことです。

日本語は、「かく（書く・欠く・掛く）」のように、漢字ではさまざまに書き分ける内容をすべて持っています。このように多様な日本語の、その場合の場の内容をひと目で識別できる手段が漢字です。だから、いきおい漢字を多用するようになる。とくに最近では、パソコンですぐに難しい漢字が出てくるため、なおさら安易に漢字を使用する傾向にあります。

しかし、そうした漢字依存が、日本語のもつ本来の意味を失わせていくこととなります。

例えば、右にあげた「かく」は、文

字や絵を「かく」時に用いますが、このことばは、漢字や簡や紙が渡来する以前からあったと考えられています。

文字がないのに、どうして「かく」ということばがあるのか。その答えが

縄文の土器です。土をこねて成形したものに縄目をはりめぐらしたり、線文様などを刻んだりする。この時、先の尖ったもので、柔らかい粘土を引っ掻く動作をします。原初の「かく」とは、掻いて表面の土や石を欠くことだったと言われています。

ものに傷をつける「掻く」行為は、指を使って行う動作です。後世の例ではありませんが、琴を「掻き鳴らす」など、「かく」は、指先や爪で何かを動かすことを示す接頭語として用いられることもあります。ですから漢字が入ってきた時、指を使って何かを記す動作を「かく」といい、同じく指で絵に表わすことも「かく」といったのです。そして両者を、「書く」「描く」などと漢字を変えて区別するようになったという事です。しかしそのために、「かく」という「やまとことば」が、本来はどういう働きを示すものなのかが、わかりにくくなってしまう

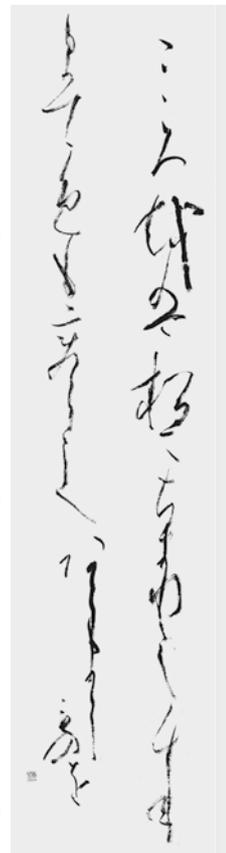
いました。

一休ばなしに「このはしわたるべからず」という、有名な話があります。単なる駄洒落のように受け止められています。この「はし」は、日本語の豊かさを示してくれる逸話です。「はし」は橋なのか端なのか、どちらの意味だろうかと、意味を限定して理解しようとするほど、日本語を痩せさせるものはありません。

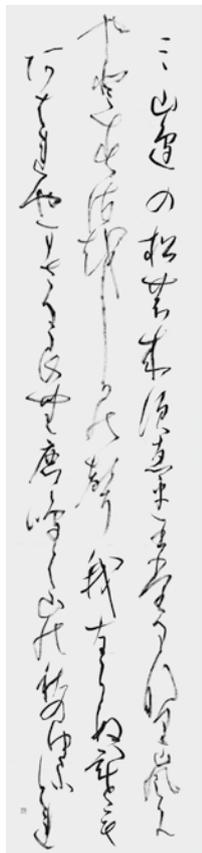
さらには、「はし」には本来、「間」の意味がありました。例えば箸は二本の間でつかむから「はし」、鳥の「くちばし」も同様です。両岸をつなぐから、橋を「はし」といったのです。この頃知から、「橋」「端」「間」を思い浮かべる遊びは、楽しいものです。

日本の民俗学者の柳田國男氏は「どんな字病」ほど恐ろしい病気はないと書いていました。それは「どんな字を書くのですか」と絶えず問いかける人々への警鐘です。

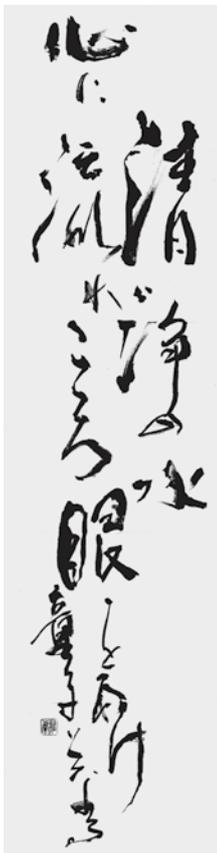
日本語は包容力のある、創造性豊かな沃野をもちます。



心をば 松に契りし 千年まで 色も実らで あらましものを (良寛)



み山べの 松のこずゑを わたるなり 嵐にやどす さをしかの聲 われならぬ 人もあはれや まさるらむ 鹿鳴く山の 秋のゆふぐれ (『新古今和歌集』)



清浄の水 心に流れ ころろ眼をあけ 童子となる (蘇東坡の詩)

清浄の水 136×35cm

み山べの 240×60cm

心をば 136×35cm



椿寿

昭和二年生・九十三歳

湯田典道(南会津町)



136×53cm



136×35cm

唯有春江看未厭

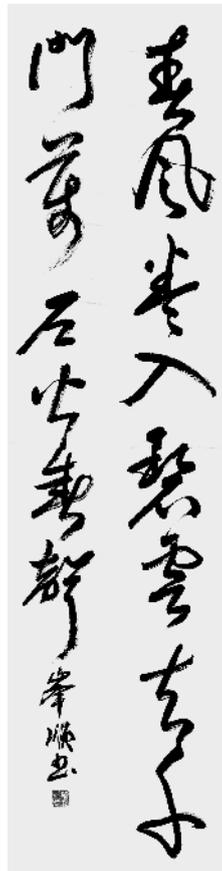
昭和三年生・九十二歳

関谷一 (只見町)

七言二句

昭和三年生・九十二歳

遠藤峯順(会津若松市)



136×35cm

桜梅桃李

昭和四年生・九十一歳

箭内節雲(会津若松市)



33×32cm



【児童の部】

郡山市立富田東小学校
六年 前 林 里央梨

◎準大賞
いわき市立長倉小学校
三年 藁 谷 知 世

富田東小六前林里央梨

星雲

川俣町立川俣中学校
二年 齋 藤 きあり

白河市立表郷小学校
五年 薄 井 悠

川俣中二齋藤きあり

遠景

表郷小五薄井悠

希望

小野町立小野中学校
三年 鈴 木 千 夏

小野中三 鈴木千夏

秘境

長倉小三 藁谷知世

玉石

【高校生の部】

◎大賞 臨 建中告身帖
福島東高校 三年 佐 藤 ひなた
(福島市)

◎準大賞 臨 道因法師碑
郡山東高校 二年 先 崎 美 咲
(田村郡小野町)

貞規存乎士範述
臧中外服勞 日向臨

◎準大賞 臨 登鳥筆記言 摠持之
苑斯聞 結集之侶揚
其實諦傳授 道因法師碑美咲

学法福島高校 二年 阿 曾 萌 生
(福島市)

◎準大賞 臨 吳昌碩
安積高校 三年 大 竹 楓
(田村郡小野町)

色も空もわらわら
いもいもわらわら

◎準大賞 臨 聽老江南雨 啼乾渡口鴉春湖添
迷浦梅林落 新葉碧玉尊前沃
黃金夢 裏家天涯同惜 此美昌碩

136×35cm

【学生の部】

◎大賞 天禄永昌
白鷗大学 四年 阿 部 峻 大
(田村郡小野町)

昌天禄永

昌天禄永 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌 天禄永昌

◎準大賞 袁枚詩
白鷗大学 二年 吉 田 理 彩 子
(田村郡小野町)

月行疑踏水竿坐當
手衣不問梁開燕明

◎準大賞 臨 鴈塔聖教序
北海道教育大学 一年 安 斎 菜 穂
(郡山市)

其數然而天地苞乎
陰陽而易識者 菜穂臨

136×35cm

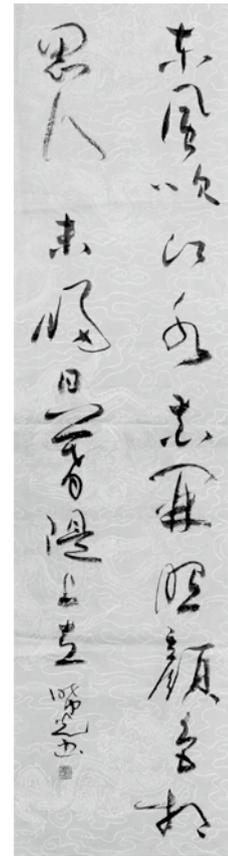
136×35cm

136×35cm

136×70cm



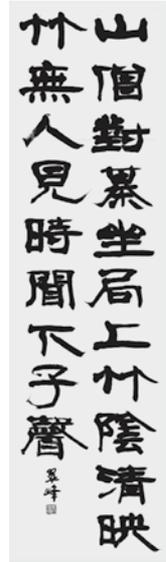
きずな
佐藤夕佳
(宮城県仙台市)



東風吹江水
副会長 菅野暁光 (福島市)



136×35cm
忘己利他
大関雅堂 (会津若松市)



136×35cm
池上二絶
水口翠峰 (川俣町)



第44回展 一般の部 審査会



第44回展 学童の部 審査会



第44回展 高校生の部 審査会



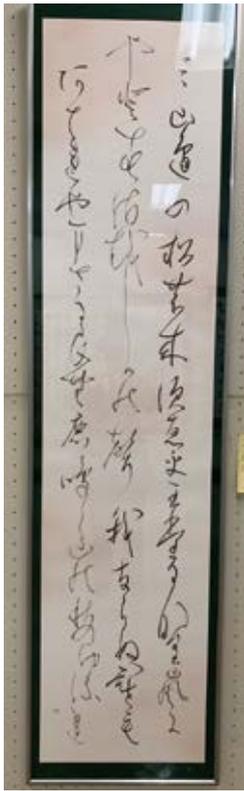
第44回展一般の部 審査会
(於：県文化センター)



第44回展学童の部 審査会
(於：県文化センター)



第44回展高校生・学生の部 審査会
(於：県文化センター)



み山べの

令和2年度福島県高文祭
準大賞
学法福島高校2年
阿曾萌生さん

令和3年度全国高文祭 (和歌山大会)
福島県代表



臨 王鐸

令和2年度福島県高文祭
準大賞
安積黎明高校2年
長久保周子さん (大師塾)

令和3年度全国高文祭 (和歌山大会)
福島県代表



臨 建中告身帖

令和2年度全国高文祭 (高知大会)
福島県代表 福島東高校3年
佐藤ひなたさん



臨 皇甫誕碑

令和2年度全国高文祭 (高知大会)
福島県代表 郡山東高校2年
先崎美咲さん (大師塾)



福島県代表強化錬成会
学法福島高校 2年
阿曾萌生さん
(於：郡山萌世高校)



福島県代表強化錬成会
安積黎明高校 2年
長久保周子さん (大師塾)
(於：郡山萌世高校)



臨 孫秋生造像記

令和2年度福島県高文祭
準大賞
福島東高校2年
遠藤瑠夏さん

令和3年度全国高文祭 (和歌山大会)
福島県代表

第四十四回福島県書道連盟展

※今年度の第四十四回県書道連盟展は、左記の日程での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止から、作品集を発行する「誌上展」として開催することになりました。

▼会期 令和二年十月十五日(木)～十八日(日)

▼会場 とうほう・みんなの文化センター (福島県文化センター) 三階展示室

▼表彰式 十月十八日(日)午後一時～ 同・会議室(二階)

◎一般の部

- ・福島県知事賞 後藤琿苑(福島市)
- ・福島県書連大賞 阿部剛節(小野町)
- ・福島県書連大賞 松浦恵鶴(国見町)
- ・福島県書道連盟賞 西牧大篁(小野町)
- ・福島県文化センター館長賞 須田愛泉(福島市)
- ・福島市長賞 佐藤香月(伊達市)
- ・福島市教育委員会教育長賞 阿曾雅舟(川俣町)
- ・福島民報社賞 新田溪楓(小野町)
- ・福島民友新聞社賞 阿部大河(小野町)
- ・朝日新聞福島総局賞 二階堂黄岳(福島市)
- ・読売新聞東京本社福島支局賞 齋藤静雨(福島市)

・毎日新聞福島支局賞 内海春邨(会津若松市)

・NHK福島放送局賞 中村庭哥(福島市)

・福島テレビ賞 遠藤溪祥(田村市)

・福島中央テレビ賞 阿部美雅(伊達市)

・福島放送賞 鈴木清月(福島市)

・テレビユー福島賞 道喜珠芳(会津若松市)

・ラジオ福島賞 慶徳春水(会津若松市)

・ふくしまFM賞 大江信秀(伊達市)

◎学生の部

- ・大賞 阿部峻大(白鷗大学四年)
- ・準大賞 吉田理彩子(白鷗大学二年)
- ・準大賞 安斎菜穂(北海道教育大学一年)

◎高校生の部

- ・大賞 佐藤ひなた(福島東高校三年)
- ・準大賞 先崎美咲(郡山東高校二年)
- ・準大賞 阿曾萌生(学法福島高校二年)
- ・準大賞 大竹 楓(安積高校三年)

◎学童の部

- ・大賞 前林里央梨(富田東小学校六年)

・大賞 齋藤きあり(川俣中学校二年)

・準大賞 藁谷知世(長倉小学校三年)

・準大賞 薄井 悠(表郷小学校五年)

・準大賞 鈴木千夏(小野中学校三年)

◎最優秀団体賞 阿部科学大臣賞

◎県書道連盟大賞 後藤教室(須賀川市)

◎福島市長賞 福島大学附属小学校(福島市) 書道研究会大師塾(小野町)

◎団体特別賞

- 天栄村立大里小学校 (天栄村)
- いわき市立長倉小学校 (いわき市)
- 矢吹町立矢吹中学校 (矢吹町)
- 白河市立東中学校 (白河市)
- 富田東書写研究会 (郡山市)
- 福島県立福島高等学校 (福島市)
- 福島県立福島東高等学校 (福島市)
- 学校法人松韻学園福島高等学校 (福島市)
- 硯心書道会 (福島市)
- 會津会 (福島市)
- 太陽書道教室 (会津若松市)
- 魁書道会 (三春町)
- 五十嵐書道教室 (南会津町)
- 心雅書道会 (福島市)
- 西丸書道教室 (古殿町)
- 水口書道会 (川俣町)

◎優秀団体賞

- 池田書道教室 (喜多方市)
- 小松山書道教室 (喜多方市)
- 若菜書道教室 (福島市)
- 西若書道教室 (会津若松市)
- 木村書道教室 (喜多方市)
- 美雅書道教室 (伊達市)
- 魁書道会 (三春町)
- 永峰書道会 (伊達市)
- 上太田書道教室 (南相馬市)
- 大橋書道塾 (福島市)
- 松浦書道教室 (国見町)
- 竹秀書道教室 (伊達市)
- 紅葉会 (福島市)
- 梓風書道教室 (福島市)
- みずほ書道教室 (伊達市)
- 愛泉書道教室 (福島市)

